

Kidswell.Bio

バイオで価値を創造する -こども・家族・社会をつつむケアを目指して-



証券コード：4584

2024年11月・12月 FAQ

2025年1月20日

キッズウェル・バイオ株式会社

お問い合わせ内容

回答

2024年12月26日に公表されましたリファイナンス（資金調達）は、1株当たりの株式価値を毀損せずに、資金調達を行われたということによいでしょうか。

ご理解のとおりです。
割当先に対して既に発行している第15回と第18回の新株予約権を当社が買入れ、その後消却（消滅）させた上で、第23回と第24回の新株予約権を新たに発行する資金調達（リファイナンス）です。この第23回・第24回新株予約権は、基本設計をそれぞれ第15回・第18回新株予約権と同様にしており、このうち第24回については1株当たりの株式価値に配慮し、足元の資金ニーズの圧縮効果を踏まえて、発行規模を7.1%縮小させております。このため、本リファイナンスにおける株式価値の希薄化は、リファイナンス前に比べて低減させた内容となっております。

※ご参考：リファイナンスに関する補足説明動画

<https://youtu.be/zL6eWYkwrw0> - YouTube

2024年12月26日のリファイナンスの目的にオーバーハング懸念を軽減させていくというお話があったと思いますが、まだ第4回無担保転換社債型新株予約権付社債（第4回CB）が残っている状態だと理解しております。この第4回CBについても、この先、リファイナンス等をなされる予定でしょうか。

本リファイナンスは、株式価値の希薄化に配慮しながら、現在の当社株価水準に合わせた行使価額に再設定することで割当先の行使を促し、早期に資金調達を完了させることが大きな目標の1つです。
一方で、本リファイナンスのみでは、ご指摘の通りオーバーハング懸念の「解消」には至りませんので、本リファイナンスの進捗と株価の推移を見ながら、当該CBについても必要な対応を進める予定です。

お問い合わせ内容

回答

今年度中に目指しておられるSHEDの脳性まひに関する開発パートナー企業との契約ですが、締結された場合、契約一時金やマイルストーン収入等の発生を見込まれていると思います。具体的にいつ頃収入が発生するのか、可能な範囲で教えて頂くことは可能でしょうか。

開発パートナー企業との守秘義務のため、具体的な時期について回答いたしかねますが、契約一時金は契約締結時、マイルストーン収入は契約後、研究開発における成果や進捗を達成した際に、段階的に収入を受け取ることが一般的です。なお、当社としましては、2024年12月3日開催のR&Dミーティングでご説明しましたとおり、脳性麻痺を対象とした臨床研究における前向きな感触を踏まえて、当該プロジェクトの価値最大化に向けて、当社が適切と考える条件での契約締結を最優先いたします。

2023年6月の社長交代以降、バイオシミラー事業及び細胞治療事業（再生医療）のそれぞれの事業は着実に進展しており、企業価値も向上しているはずだと思いますが、株価がそれに連動して上がっておりません。どのようにお考えでしょうか。

当社の安定的な収益基盤であるバイオシミラー事業、成長基盤である細胞治療事業（再生医療）はそれぞれ着実に成果を積み上げており、今後も両事業において複数の重要なマイルストーンの達成を見込んでおります。一方、株価については、現時点において両事業の価値が適正に反映されていないものと認識しています。その打開策の一つとして、オーバーハング懸念を軽減することで、今後期待される事業進展に連動して株価がより適正な水準に推移しやすい環境を整えるために、リファイナンスを実行しました。また、“事業価値の見える化”及び情報発信の改善に継続的に取り組むことで、今後の株価向上につなげていきたいと考えております。

お問い合わせ内容	回答
<p>2024年12月3日開催のR&Dミーティングで、脳性まひ、大腿骨頭壊死症がSHEDの開発対象疾患としてピックアップされておりました。それぞれの市場規模を教えてください。</p>	<p>脳性まひの市場規模は、32億7,780万米ドル（2021年）、大腿骨頭壊死症を含む骨壊死の市場規模は、6億3,700万米ドル（2022年）という報告があります。</p>
<p>2024年12月3日開催のR&Dミーティングでご説明されたSQ-SHEDについて教えてください。SQ-SHEDは、従来の体性(幹)細胞(同種)、ES細胞・iPS細胞とは異なり、他の細胞医薬品の製造に対するボトルネックを解消する革新的な第三の細胞として期待されるものなのでしょうか。</p>	<p>SHED本来の特性に加え、当社製法により製造したSQ-SHEDは、分裂可能回数が極めて多く、治験から商用後まで1人のドナー細胞（マスターセルバンク）で、製品のライフサイクルをカバーすることが可能であると想定しています。これにより、従来の体性(幹)細胞（同種）においてボトルネックとなってきた原料細胞の変更時に必要な品質証明が不要になると考えられます。また、ES細胞・iPS細胞との比較においても、安全性および製造コストの観点で大きな優位性を持つことから、第三の細胞として期待し、研究開発を進めています。</p>

A background image showing two hands shaking in a firm grip, symbolizing partnership or agreement. The hands are set against a blurred green background, suggesting an outdoor setting. A semi-transparent hexagonal molecular structure pattern is overlaid on the image.

KIDS WELL, ALL WELL

こどもの力になれること、こどもが力になれること

本資料はキッズウェル・バイオ株式会社（以下、当社という）をご理解いただくために作成されたものであり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

本資料に含まれている今後の戦略・計画、将来の見通し及び その他将来の事象等に関する記載には、本資料の発表時点において合理的に入手可能な情報に基づく当社の仮定、見込み等が含まれます。そのため、実際の業績、開発進捗等は、今後の研究開発の成否や将来における当局の対応、事業パートナーの状況等、現時点では不明又は未確定な要因によって、本資料の記載とは異なる結果となる可能性があります。